

《どうでもいい話、その 527》

どうでもよくない皆様へ
こんにちは！

世の中、新型コロナウイルスの話題だらけなので、本家岩波書店「用語・ことわざ新解釈事典 下巻」もコロナ特集にてお送りします。

「さわらぬ紙に集りなし」(サワラヌカミニタカリナシ)・・・トイレットペーパーがなくなり買えなかったことから、デマなどに惑わされないことが無難であるといういましめ

「安倍らに水」(アベラニミズ)・・・安倍内閣が景気を浮上しようと策を練っているときに、コロナ騒ぎが水を差したことで、うまくいかないことのたとえ

「五輪霧中」(ゴリンムチュウ)・・・東京オリンピックの開催について様々な意見があることから、状況判断や決断が難しい意味で使う四字熟語

「息健康」(イキケンコウ)・・・健康な肺は息が元気なことから。類語は「息揚々」(イキヨウヨウ) 反対語はウイルスに感染した状態の 息消沈 (イキショウチン)

「どうしよう医務」(ドウシヨウイム)・・・新型コロナウイルス感染拡大で医療施設などが足りなくなっていることから、医業界でどうするかの意見を出し合っていること

「一日千秋の思い」(イチニチセンシュウノオモイ)・・・自粛で家に閉じこもり一日が千年にも感じられることで、収束を待ち焦がれる心情を表わした言葉

「円は移なもの」(エンハイナモノ)・・・今回の騒動により株価、円相場が乱高下することで、人の力を超えた目に見えない力が働いていること

「口は禍の門」(クチハワザワイノカド)・・・キスなど濃厚接触するとウイルスに感染しやすいという格言。類語は「下は禍の根」(シタハワザワイノネ) 下半身の接触も注意

岩波より